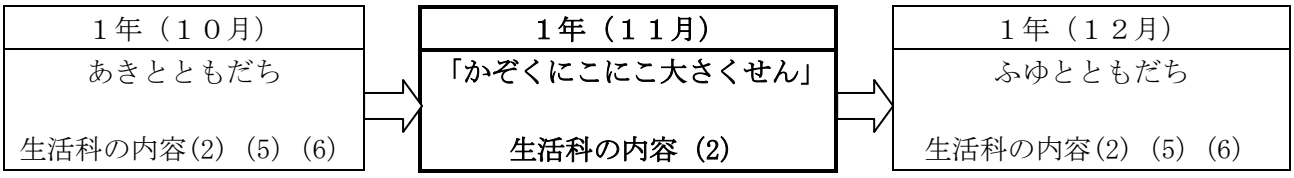
小学校第１学年２組　生活科　学習指導案

期　日　平成 27 年 11 月 25 日(水) 第２校時
場　所　山鹿市立山鹿小学校　１年２組教室
指導者　教諭　谷川　優子

１　単元名
「かぞくにこにこ大さくせん」(教育出版上)

２　単元について
(1) 単元観
本単元は、学習指導要領の内容(2)「家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。」具体的な視点「イ　身近な人々との接し方」「コ　成長への喜び」「サ　基本的な生活習慣や生活技能」に重点を置き設定した。
身近にいる家族の存在や役割について当たり前のように思っている子どもたちは、まず、自分の家族の役割について繰り返し調べたり話を聞いたりすることで、家族一人一人のよさ、家庭の温かさや家族とともにいることの喜びを改めて実感するであろう。そして、家族がより楽しく生活するにはどうしたらよいか考えることで、家庭生活に必要な仕事を行ったり、自分でできることを増やしたりすることにとどまらず、手紙のやりとりをしたり家族で一緒に過ごしたりする(家族団らん)ことが家族の喜びにつながることにも気付き、家族の一員である自分の存在をより意識できる単元である。
本単元では、家族や自分の生活を振り返り、家族のために自分ができることを考え、継続して取り組めるよう計画し、忘れずに実践できることを目指したい。また、実践を振り返り伝え合うことを通して、家族への感謝の気持ちや家族のために取り組もうとする意欲の向上、できることが少しずつ増えていく自分や成長した自分への気付きが高まることを期待している。

(2) 系統観



(3) 児童観
○本学級は、男子１７人、女子１５人、計３２人である。素直で何事にも興味関心を持って取り組む児童が多い。入学後、学校探検でグループによる探検を行ったり、アサガオのお世話を頑張ったりと生活科の学習を好む児童が多く、積極的に活動している。
○学級の中での自分の仕事や手伝いを進んで頑張ろうとする児童が多い。特に給食当番や係活動に意欲的に取り組んでいる。しかし、掃除当番など内容によって意欲が下がってしまうところがある。
○学校に来てからの一日の流れをおおよそ把握し、自分で片付けをしたり準備をしたりすることができるようになった児童が多い。また、身の回りを清潔に保とうとしたり、朝食をしっかりとったりと基本的な生活習慣が整っている児童が多い。しかし、大人から言われてしているという児童が大半で、意義を考えて行動できている児童は少ない。
○進んで思ったことを発表しようとする児童は多いが、個人差がある。友達との活動を好む児童が多いが、自分の意見を通そうとする児童も数名いる。友達の発表を聞いて自分の考えと比べながら深めていくことは指導中である。
○ノートに自分の考えや思いを記入する際には、個別の支援を必要とする児童が３人いる。
○本単元に関する児童の実態は次のとおりである。
・お手伝いを毎日している　１２人、時々している　２０人、全くしていない　０人
お手伝いの内容は、風呂掃除・トイレ掃除・食器洗い・料理の手伝いなどがでてきた。
・毎朝自分で起きている　１１人、時々自分で起きている１８人、毎日起こしてもらっている　３人

・学校の用意は自分でしたあと家の人に点検してもらっている　１８人、
家の人と一緒にしている　１１人、全部家の人がしている　３人
このアンケート結果からお手伝いは喜んでしている児童が多いが、自分のことを自分でする習慣はまだ身に付いていない児童が多いことがわかる。

(4) 指導観

○活動のねらいや内容を事前に保護者に伝え、連携しながら活動を進めていくようにする。また、単元の終末には、家族から児童への手紙をもらうことで、家族の思いを理解させたい。

○本単元の具体的な活動や体験は、家庭での時間外の活動となる。そこで、家庭での仕事について発表を行ったり感想を交流したりする場を設定し、「自分の家族だったら」「自分だったら」と考えさせることにより、家庭での経験が十分でない児童が、より深く家族のことについて考えることができるようにする。

○家庭内での仕事を行うことは、「忙しさ」「大変さ」の視点だけでなく、「誰のために」「どんな気持ちで」なども合わせて考えさせる。また、家庭からの感謝の言葉やねぎらいの言葉なども意図的に取り上げ、広げていくことで、家庭内の仕事が家族を支えていることに気付かせるとともに、児童が感謝の気持ちを持つことができるようにする。

○相手意識・目的意識を明確にした課題「かぞくにこにこ大さくせん」を提示し、意欲を高め実践を工夫したり継続したり広げたりすることができるようにする。また、自分のことは自分でできるようになることが家族の喜びであることに気付かせ生活上の自立の視点も加えたい。その際に自分が納得して取り組むことができるように動機付けや計画、準備ができるよう支援の工夫をし、実践を振り返り、多様な表現方法でまとめ、伝え合うことで、家族が喜ぶことはいろいろあることに気付かせたい。

○自分ができそうなことを考えて仕事や手伝いを計画・実践し、自己評価や家の人からの評価によって達成感を持たせ、できるようになった自分や成長した自分に気付かせ精神的な自立の視点も加えたい。

○家の中での家族の仕事調べカード、お手伝いや「かぞくにこにこ大さくせん」の記録カードを作成し、家庭の活動の中で活用させることにより、継続して行うことができるようにする。

○冬休みにも「かぞくにこにこ大さくせん」を継続したり、年末年始ならではの自分の役割を考えたりして冬休みの計画を立てさせ、学習したことを活かしたい。

○「かぞくにこにこ大さくせん」では、家庭生活に必要な仕事に取り組むことに加え、手紙のやりとりをしたり家族で一緒に過ごしたりする(家族団らん)ことも家族の喜びにつながることに気付かせたい。

【視点１】学びを引き出す豊かなかかわり合いのある言語活動	【視点２】学びを振り返る思考過程の可視化と学びの振り返り	【視点３】学びを支える学びのＵＤ化と効果的なＩＣＴの活用
【視点１】 ○児童が驚きや発見を伴う教材提示や問いを工夫し、子どもの問いを引き出し、その問いからスタートする探究的な学習過程をデザインする。 ○相手意識・目的意識を明確にした言語活動を繰り返し位置付け、学習意欲を高め、子どもの多様な考えを引き出したり深めたりできるようにする。 ○家庭を情報収集の場として生かせるように展開→まとめ→導入の学習過程を取り入れる。	【視点２】 ○自分の考えを明確に持たせ、体験や活動と振り返りを繰り返し位置付けて気付きを促し、他者と協働する中で、より高められるようにする。 ○児童の思いが見え、自分自身への気付きが生まれるような振り返りを工夫する。 ○児童の思考が深まるような言葉かけをし、さらに考えたことを学習シートに書き加えたり色をつけたりさせる。	【視点３】 ○児童が自ら気付いたりより思考が深まったりするように、共感的な言葉かけや意味付け、価値付けにつながる言葉かけをする。 ○振り返り表現する場面や伝え合い交流する場において、教師や児童が効果的にICT を活用することにより、一人一人の気付きを質的に高め、共有できるようにする。 ○考え方(思考ツール)の習得を図る。(比べる、見つける、たとえる)

◇インクルーシブ教育の視点から

【基礎的環境整備】

・事前に児童一人一人の家庭環境(家族構成や家庭の事情等)を十分に把握しておき、楽しく学習できるように言葉かけなどに配慮する。
・家族を狭義でとらえず、いろいろな家族形態があることを配慮して学習を進める。
・家庭での活動が多くなるので、事前に連絡を取り、学習のねらいや単元全体の流れを知らせとともに、十分な活動時間を確保したり、学習カードを工夫したりして、活動の手助けとなるようにする。
・児童が、学習の見通しを持てるように単元全体や１時間の流れを示す。

【合理的配慮】

（省略）

３　単元の目標と評価規準

単元の目標	家庭生活を支える家族について関心を持ち、調べたり尋ねたりする活動を通して、自分でできることについて考え、家族への感謝の気持ちを持つとともに、家族の一員として役割を果たし、意欲的に生活することができるようにする。
生活への関心・意欲・態度	①家族や自分の生活を振り返ることにより、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活しようとしている。 ②家族のために自分でできることをしようとしたり、感謝の気持ちを伝えようとしたりしている。
活動や体験についての思考・表現	①家庭生活を振り返り、家族のことや自分のこと、自分でできることについて考えている。 ②自分でできることや家族が喜ぶことを見つけ、家庭生活が楽しくなるように考え工夫している。 ③家庭生活をよりよくするために取り組んできたことを振り返ったり、交流したりして、それを素直に表現している。
身近な環境や自分についての気付き	①家族には、それぞれの果たしている仕事や役割、一人一人のよさがあることが分かり、その一員として自分ができることに気付いている。 ②家族が楽しくなることを考える活動の中で、自分ができるようになったことや自分の成長に気づくとともに、自分の生活や成長を支えてくれた家族の存在や温かさに気付いている。

4　指導・評価の計画（11 時間取扱い　本時７／11）

次	時	学　習　活　動	指　導　上　の　留　意　点 **【３つの視点から】**	**評価の観点（評価方法）** B基準
みんなの一日	1	＜出会い＞ ○幼児の時に着ていた服や自分の手の大きさから、自分が成長してできるようになったことを振り返る。	**・幼児の時の服のサイズと今の服のサイズを比べたり、手の大きさを写し取ったりする活動を通して成長を感じ、自分ができるようになったことが増えたことを実感させる。**	**気付き①（シート・発言）** **自分ができるようになったことや生活の中で楽しいこと、してもらっていることなどに気付いている。**
	1	＜イメージ化＞ **かぞくについてしらべたり、いえのしごとをやってみたりしましょう。そして、「かぞくにこにこ大さくせん」をして、かぞくがにこにこするひみつをともだちにおしえましょう。** ○自分の家族のことや家族と一緒にいて楽しかったことを話し合い、学習の計画を立てる。	・家族がにこにこしている写真を見せ、クイズ形式でにこにこする場面はどんな時か考えさせる。 **【視点１】児童の思考・表現が深まるように、常に相手意識を持てる課題を提示する。**	**思考・表現①（シート、発言）**家族との楽しかったことを思い出し、もっと楽しくなるにはどうしたらいいか考えている。
	1	○家庭の中で、毎日誰がどんな仕事をしているか調べ、気付いたことをまとめる。	**・教科書を参考にし、家族の一日の様子を考えさせる。** **【視点１】友だちと話し合うことで、自分の家庭のよさや友だちの家庭の違いに気付けるようにする。**	**関心・意欲・態度**（カード、対話） **家庭生活を支えるための家族の仕事を調べようとしている。**
	家庭で	**＜試しの体験＞** ◆家庭の中で、誰がどんな仕事をしているのかを調べ、カードに書き加える。	・期間を決め、各家庭において家族の仕事を調べさせる。その際学習カードを宿題に出し、なるべくたくさん見付けて学習カードに書けるよう言葉かけをする。	**関心・意欲・態度①（カード、対話）** 家庭生活を支えるための家族の仕事を調べている。
	1	**＜情報加工（情報収集）＞** ○調べたことを友達と伝え合う。 **おうちのしごとは、とてもたくさんあるんだな。ぼくにもできることはないかな。おてつだいにちょうせんしてみたいな。**	・調べた家族の仕事について、気持ちについてもまとめることで、家族の思いや願いに触れることにもつなげる。	**思考・表現③（発言・つぶやき）** 調べた家族の仕事について調べたことを友達に伝えている。
いえでチャレンジ	1	**＜本格的な体験①＞** ○家庭の中で自分のできそうなこと、やってみたい仕事を考える。	・家庭にはあらかじめ協力を依頼して、児童が主体的に活動できる環境を整えておく。	**思考・表現①（カード・発言）** 家庭の中で自分のできることについて考えている。
	家庭で	◆家族と一緒に家の仕事をやってみる。 ◇自分一人でできることをさがしてやってみる。	**【視点３】認めほめる言葉かけや、感想を児童にかけていただくようにお願いをする。**	**関心・意欲・態度②**（カード・対話） 自分で決めた家の仕事を家族と一緒にやったり、一人でやったりしている。

	1	○家庭でやってみた仕事について気付いたことをカードにかき、伝え合う。 	・仕事をやってみて気付いたことや感想をカードに絵や文で表わす時間を十分に確保する。 **【視点２】伝え合う場面では、質問の時間を大切にし、自分の言葉で返していくように支援していく。**	**気付き①（カード・発言）** やってみた仕事について気付きをカードにかき、友達と交流している。 ※言語スキル比べる、たとえる、関連付ける、見つける（気付き）の表現
		おうちのしごとはむずかしかったけど、おかあさんがよろこんでくれたよ。もっとおうちのひとがにこにこになるように、わたしができることはないかな。		
かぞくにこにこ大さくせん	1（本時）	**＜本格的な体験②＞** **○家族がにこにこしている時はどんな時か話し合い、「かぞくにこにこ大さくせん」の計画を立てる。**	**【視点１】試しの体験や本格的な体験①での気付きをもとに、目的意識をもって「かぞくにこにこ大さくせん」ができるようにする。**	**思考・表現②（カード・発言）** 家族が喜ぶことを見つけ、「かぞくにこにこ大さくせん」の計画を立てている。
	家庭で	◆「かぞくにこにこ大さくせん」を家庭の中でやってみる。	**【視点３】認めほめる言葉かけや、感想を児童にかけていただくようにお願いをする。** ・取組の様子や家族の言葉などを記録するカードを作成し記入させるようにする。	**関心・意欲・態度②（カード・対話）** 「かぞくにこにこ大さくせん」を行っている。
	2	○「かぞくにこにこ大さくせん」で行ったことや分かったことを自分なりの表現方法で表わす。	**【視点２】「かぞくにこにこ大さくせん」で見付けた秘密や気付いたことが自分なりの表現方法で表わすことができるように問いかけや対話を行う。**	**思考・表現③（行動観察、つぶやき、発言）** 「かぞくにこにこ大さくせん」で気付いた秘密を友達に紹介できるように工夫している。
	2	○家族がにこにこする秘密を紹介し合う。 	**【視点３】児童の気付きが発表の中に表れなかった場合には、教師がそのことについて意図的に質問し、自分の言葉で表現させるようにする。**	**思考・表現③（発表の様子・発言・問いかけ）** 家族がにこにこする秘密を自分なりに表現したものを使って紹介している。
		かぞくのみんながにこにこしてくれて、とってもうれしかったよ。これからもみんながにこにこすることをつづけたいな。		
おはなしのじかん		**＜新たな学びへの発展＞** ○教科書 P. 70, 71 のイラストを見て、家族みんなの気持ちや、家族の願いを考える。 ○ありがとうカードを書き、これから自分が取り組んでいくことを考える。	**【視点２】挿絵を見ながら話し合い、家族の思いや温かさを確かめ、それらに守られて成長してきた自分自身に気付くことができるようにするために、科学的思考を促す問いかけを意識的に行う。**	**気付き②（発言・つぶやき）** ・家族の大切さや、自分が家族によって支えられていることに気付いている。 **思考・表現②（カード・発言）** これから自分ができることを考えている。
		おかあさん、ぼくがびょうきのとき、しんぱいしてくれてありがとう。まいにちつくってくれるごはんは、とってもおいしいよ。これからも、かぞくみんながにこにこしてすごせるよう、がんばります。		

５　本時の学習７／１１

(1) 目標

家族がにこにこしている時はどんな時か話し合い、家族のために自分ができる「かぞくにこにこ大さくせん」の計画を立てることができる。

(2) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 ５分	１　前時までの学習を振り返る。 ２　本時のめあてを知る。 学習課題（めあて） 「かぞくにこにこ大さくせん」のけいかくを　たてよう ～　一人一人のにこにこをさがしだせ　～	○前時までの学習活動を学習シートをもとに振り返らせ、お手伝いをすると家族がにこにこしたことを思い出せるようにする。 **【視点３】学習シートを実物投影機で映し出すことで、振り返りやすくする。**	学習シート 実物投影機
展開 32分	３　家族一人一人がどんな時ににこにこになるかどんな時ににこにこしたか考える。 (1) 一人で (2) 二人で	○視点をお手伝いから家族団らんへ切り替える。 （家の人のコメント、学習シート、教科書を参考） 能動型学習（ポイント） ○家族をにこにこにするためにどんなことができるか思いつくことを出し合うことで、一人で考えるヒントにできるようにする。 ○子どもたちから出された考えをキーワードごとに整理することで、次の活動につなげる。 ○今までの体験を参考にしたり友達の意見を比べるたりしながら、家族一人一人の思いを考えることで、より主体的に計画を立てられるようにする。	にこにこ顔のイラスト おうちの人からのコメント 絵カード 家族の様子の写真
	４　「かぞくにこにこ大さくせん」の計画を立てる。 (1) 計画を立てる。 (2) 発表する。 (子ども同士の質問や意見交換) 【言語活動】 今までの体験をもとに、自分がどんなことをしたら家族一人一人がにこにこになるのか話し合うことで、家族の一人一人の思いをしっかり考えることができるようにする。	**【視点１】今までの体験での自分の思いや友達の考え、お家の人からのコメントをもとに相手意識や目的意識をもって決定させるようにする。** 評価：**思考・表現（学習シート・発表）** B基準　自分でできることや家族が喜ぶことを見付け、作戦の計画を立てている。 A基準　B基準に加え、家族の思いや願いを考えながら、工夫して作戦の計画を立てている。 〈B基準に達していない児童（生徒）への手立て〉 家族からのコメントを一緒に読み、問いかけをしながら児童の思いを引き出していく。 【視点３】共感的な言葉かけをする。 ・～と思ったんだね。（繰り返し） ・それは～ということなんだね。（言い換え） ・どうしてそう思ったのかな。（質問）　など	計画カード 絵カード 実物投影機
整理 ５分	５　振り返りを発表する。	○工夫して計画を立てている児童の内容は、全体に紹介しほめることで、他の児童の気付きに広がりや深まりを持たせたい。 **【視点２】友達のよかったところ、自己の成長、「かぞくにこにこ大作戦」への思いを発表できるようにする。**	
導入 ３分	６　計画したことを家庭で実行することやその時の注意点を確認する。	**【視点１】展開→まとめ→導入を取り入れる。** ○次の活動への意欲を高める。 ○家族の思いを大切にしながら行うことを伝える。	

※本単元における児童の姿の例

○　学習活動を進んで行い、適切な方法で表現している児童の姿（学習上の自立）

○　習慣や技能を身に付け、生活に活かしている児童の姿（生活上の自立）

○　自分のよさに気付き、前向きに生活していこうとする児童の姿（精神上の自立）

お家の人はどんな仕事をしているのか知りたいな。

毎朝自分で起きられるようになったよ。

お風呂掃除や皿洗いができるようになったよ。

ぼくがお手伝いすると家族がにこにこしたよ。

お家の人は、毎日ご飯を作ったり、お掃除をしたりしてくれてるよ。

お家の人にお礼を言えるようになったよ。

ぼくたちにもお手伝いできることってたくさんあるんだね。
※将来への希望

お家の人と皿洗いにチャレンジしよう。

学校であったことをお家の人に話すようになったよ。

家族がにこにこするとうれしいな。

家族にお手紙を書いて「いつもありがとう。」の気持ちを伝えよう。

仕事にはいろいろなコツがあるんだな。今度から上手にできるね。他の人にも教えてあげよう。

家族のみんながにこにこすることを続けていきたいな。

いつも仕事をがんばってるお家の人に肩たたきをして喜ばせよう。

○○さんからコツを教えてもらってぼくもできるようになったよ。

友達と一緒に考えたら、いい方法が見つかったよ。

わかったことを絵に描いて発表すると分かりやすいね。

<u>※学んだことが生活の中に生かされている。</u>

<u>・家族に役に立っている自分
・家族の喜びが自分の喜びへ
・できるようになった自分
・友達の良さに気付いている</u>

<u>※学習活動を進んで考えている。
※適切に表現できる
※問を持つ</u>